

独楽徒然集

川平, 敏文
九州大学大学院人文科学研究院 : 准教授

<https://doi.org/10.15017/1518322>

出版情報 : 文献探究. 50, pp.1-, 2012-03-31. 文献探究の会
バージョン :
権利関係 :

解説

川平敏文

本書は津軽藩五代藩主・津軽信寿が享保十六年（一七三二）、その退隱を記念して刊行した絵入り詩歌・俳諧集。信寿（竹翁）を中心に、嫡子信興（竹鳳）・商山・蘭室・直都・伯泉・素龍・文軌などの漢詩・和歌・発句および連句を載せる。絵師は小川破笠・小川栄羽・小川宗理・大沼華笠などの破笠一門、そして英一蜂を起用。和漢雅俗にわたる洗練された趣向、またその装幀の豪華さ、伝本の稀少さから、コレクター垂涎の書である。

これまで知られている伝本は二本。一は、弘前市在住個人所蔵、一はケンブリッジ大学図書館アストン・コレクション所蔵。二本ともに、乾坤二冊、緞子表紙に金砂子の題簽、見返しは藍刷りで、双龍争珠の枠取りに隷書で表題が記される。まことに大名お手製の贅をつくした作りと言えるだろう。

それらに対して、今回紹介する九州大学附属図書館雅俗文庫蔵（中野三敏先生旧蔵）の一本は、その並製本とも言えるもの。上冊のみの端本で、薄縹色の紙表紙に題簽は剥落、「享保詩歌発句絵」と墨書。イギリスの言語学者で、日本で教鞭を執ったバジル・ホール・チェンバレン（一八五〇—一九三五）の蔵書印（「英 王堂蔵書」）が捺されている。

本書には前記見返しがなく、またケンブリッジ大学本の序文末に捺されている竹翁の朱印もない。「多くの大名本や藩版と同じく初摺りの豪華本は配り本として作られ、その後、板は本屋へ下り渡されて並製の町版となったものであろう」（参考文献3）という。

とはいえ、並製ながらも稀本中の稀本であることには変わりない。余談だが、俳諧研究者であり俳書コレクターとしても知られた故雲英末雄・早稲田大学名誉教授が、集中講義で本学に来校された際、参考文献3の図版撮影用にたまたま借り出していた本書を見て、「中野さんは凄いの持ってるナア」と小さく唸られたのを思い出す。

参考文献

- 1 木村仙秀 『独楽徒然集』 お大名の道楽出版の代表的なものとして 「日本書誌学大系 木村仙秀集 第四巻、一九三五年初出」
- 2 『独楽徒然集』（弘前市立博物館、一九八七年）
- 3 中野三敏 『雅語俗録 七』（『雅俗』第七号、二〇〇〇年）
- 4 虎尾達哉 「ケンブリッジ大学図書館『アストン和書目録』について（11）」 『研究論文集 教育系・文系の九州地区国立大学間連携論文集、二〇一一年』

（かわひら としふみ・九州大学大学院准教授）